Stirling の公式

Wallis の公式を利用して,Stirling の公式: $\lim_{n \to \infty} \frac{\sqrt{2\pi} n^{n+\frac{1}{2}} e^{-n}}{n!} = 1$ を証明します。

この公式により n! が $\sqrt{2\pi} n^{n+\frac{1}{2}} e^{-n}$ で近似できることがわかります。

【補題1】

関数 f(x) は区間 [a,b] で 2 回微分可能で, f''(x) は連続であるとする。このとき,

$$\int_{a}^{b} f(x)dx - \frac{1}{2} \{f(a) + f(b)\}(b - a) = -\frac{1}{2} \int_{a}^{b} f''(x)(x - a)(b - x)dx$$

が成り立つ。

[証明] 証明すべき式の右辺について、部分積分を2回して

【補題1】の左辺は、「定積分 $\int_a^b f(x)dx$ と台形の面積 $\frac{1}{2}\{f(a)+f(b)\}(b-a)$ の差」なので、この定理の主張は、それが $-\frac{1}{2}\int_a^b f''(x)(x-a)(b-x)dx$ になるということです。

【補題1】を区間[a,b]をn等分した各小区間に適用して和を求めると、次の【補題2】が得られます。

【補題2】

関数 f(x) は区間 [a,b] で 2 回微分可能で, f''(x) は連続であるとする。さらに区間 [a,b] において $|f''(x)| \leq M$ (M は定数)とする。

このとき、区間[a,b]をn等分する分点を $x_k = a + k \frac{b-a}{n}$ $(k=0,1,\cdots,n)$ として、

$$T_n = \sum_{k=1}^n \frac{1}{2} \{ f(x_{k-1}) + f(x_k) \} \frac{b-a}{n}$$
 とおくと、
$$\left| \int_a^b f(x) dx - T_n \right| \leq \frac{M(b-a)^3}{12n^2}$$
 が成り立つ。

よって
$$\lim_{n\to\infty} n\left\{\int_a^b f(x)dx - T_n\right\} = 0$$
 が成り立つ。

[証明]
$$h = \frac{b-a}{n}$$
 とおくと、

次に、次に Stirling の公式を証明します。

関数 $f(x) = \log x$, 区間[1, 2]に対して【補題2】を適用する。

$$f''(x) = -\frac{1}{x^2}$$
 であり、 $M = 1$ として
$$\int_1^2 \log x \, dx = \left[x \log x - x \right]_1^2 = 2 \log 2 - 1 = \log \frac{2^2}{e}$$

$$T_{n} = \left\{ \sum_{k=0}^{n} \log\left(1 + \frac{k}{n}\right) - \frac{1}{2}\log 1 - \frac{1}{2}\log 2 \right\} \frac{1}{n} = \frac{1}{n}\log\left\{ \left(1 + \frac{1}{n}\right)\left(1 + \frac{2}{n}\right) \cdot \dots \cdot \left(1 + \frac{n}{n}\right) \cdot \frac{1}{\sqrt{2}} \right\}$$

$$= \frac{1}{n}\log\frac{(n+1)(n+2) \cdot \dots \cdot (n+n)}{\sqrt{2}n^{n}}$$

$$= \frac{1}{n}\log\frac{(2n)!}{\sqrt{2}n^{n}n!}$$

より
$$n\left(\int_{1}^{2}\log x\,dx-T_{n}\right)=\log\left(\frac{2^{2}}{e}\right)^{n}\frac{\sqrt{2}n^{n}n!}{(2n)!}=\log\frac{\sqrt{2}\,2^{2n}n^{n}e^{-n}n!}{(2n)!}$$
 となるから、

【補題2】より
$$\lim_{n\to\infty}\frac{\sqrt{2}2^{2n}n^ne^{-n}n!}{(2n)!}=1$$
 …①が得られる。

ここで、Wallis 公式より
$$\lim_{n\to\infty} \frac{2^{2n}(n!)^2}{\sqrt{n}(2n)!} = \sqrt{\pi} \cdots$$
②であり、 $\frac{1}{2} \times \sqrt{\pi}$ を計算すると

$$\lim_{n\to\infty} \frac{\sqrt{2\pi}n^{n+\frac{1}{2}}e^{-n}}{n!} = 1$$
 となり、Stirling の公式を得る。

[研究]

最後に、 $\sqrt{2\pi}n^{n+\frac{1}{2}}e^{-n}$ と n! の様子をグラフで表してみます。 $y = \sqrt{2\pi}x^{x+\frac{1}{2}}e^{-x}$ としてグラフを描いたものと、 $x = 1, 2, 3, \cdots$ として y = x! を離散的にプロットしたものを 一緒に描くと右図のようになります。

